

衛研第1-50号
平成28年 3月 9日

感染症発生動向調査事業
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当
電話 0493-59-9325
FAX 0493-59-9613
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 平成 28 年 第 9 週（平成 28 年 2 月 29 日～平成 28 年 3 月 6 日）

今週の注目される疾患

全数把握対象疾患では、一類から三類感染症（二類：結核を除く）の届出はなかった。四類感染症は、E 型肝炎 1 人、レジオネラ症 2 人の届出があった。五類感染症は、急性脳炎 3 人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 人、後天性免疫不全症候群 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 2 人、梅毒 5 人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 人の届出があった。

定点報告対象疾患では、**インフルエンザ** (37.44→34.24) の定点当たり報告数は、前週に引き続きわずかな減少に留まり、第 4 週 (1 月 25 日～31 日) 以降、報告数の多い状況が続いている。保健所別では、川越市 (44.08)、草加 (40.00)、加須 (38.80) 保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、全年齢階級から報告があり、10 歳未満で全体の 60.2% を占め、10 歳未満では 6 歳が最も多い。**流行性耳下腺炎** (0.88→1.06) の定点当たり報告数は、第 4 週以降同水準で推移していたが、今週は前週より増加した。保健所別では、坂戸 (1.33→2.83) 保健所管内で大きく増加し、幸手 (3.11)、春日部 (2.67)、東松山 (2.20) 保健所管内で多い状況が続いている。年齢階級別では、5 歳及び 6 歳が多い。**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎** (3.49→3.30) は、前週より僅かに減少したが多い状況にある。保健所別では、熊谷 (4.11→6.33) 保健所管内で大きく増加し、川越市 (5.88)、草加 (5.27) 保健所管内からの報告が多い。眼科定点報告対象疾患では、**流行性角結膜炎** 15 人 (前週 26 人) の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、**マイコプラズマ肺炎** 4 人、**感染性胃腸炎 (ロタウイルス)** 1 人、**インフルエンザ (入院)** 31 人の報告があり、インフルエンザ (入院) は前週 (18 人) より大きく増加した。

<全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症	報告なし	
二類感染症	報告なし (結核を除く)	
三類感染症	報告なし	
四類感染症	E 型肝炎	1 人 (推定感染地域 国内)
	レジオネラ症	2 人 (病型 肺炎型 2 人)
五類感染症	急性脳炎	3 人 (インフルエンザウイルス A 2 人、 インフルエンザウイルス型不明 1 人)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 人 (血清群 A 群 1 人、B 群 1 人)
	後天性免疫不全症候群	1 人 (病型 無症状病原体保有者)
	侵襲性肺炎球菌感染症	2 人
	梅毒	5 人 (病型 早期顕症 II 期 1 人、 無症状病原体保有者 4 人)
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 人

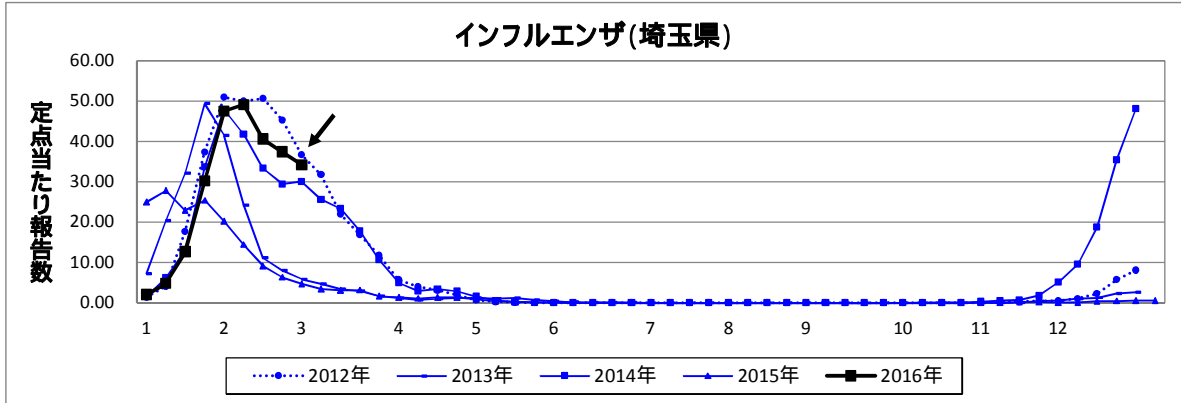
1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。
 衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613
 e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ (URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>) で御覧になれます。

注目すべき疾患

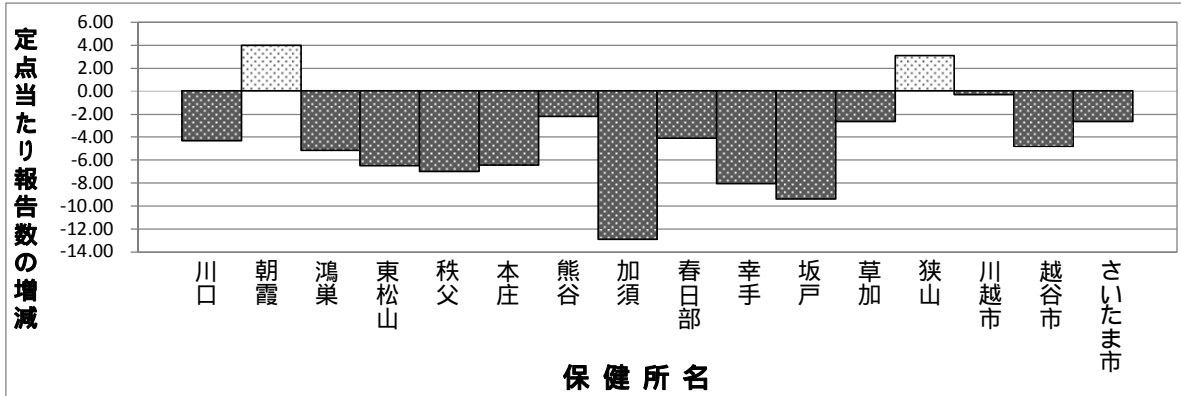
- インフルエンザ 内科・小児科定点 -

インフルエンザは第6週（2月8日～14日）をピークに減少に転じたが、前週及び今週の定点当たり報告数（40.59→37.44→34.24）は、僅かな減少に留まった。

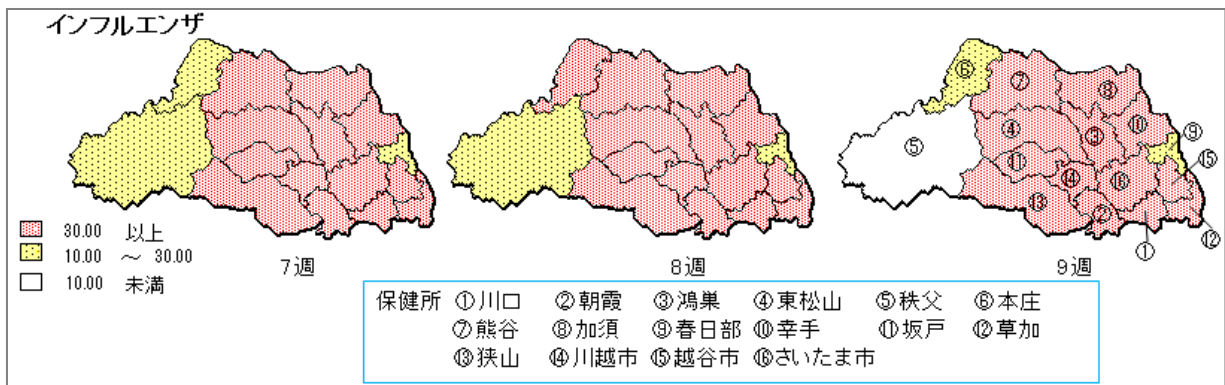


保健所別の定点当たり報告数は、前週に引き続き減少した保健所が多いが、未だ 13 保健所管内で 30.00 を超えた状況が続いている。

保健所別定点当たり報告数の前週との比較



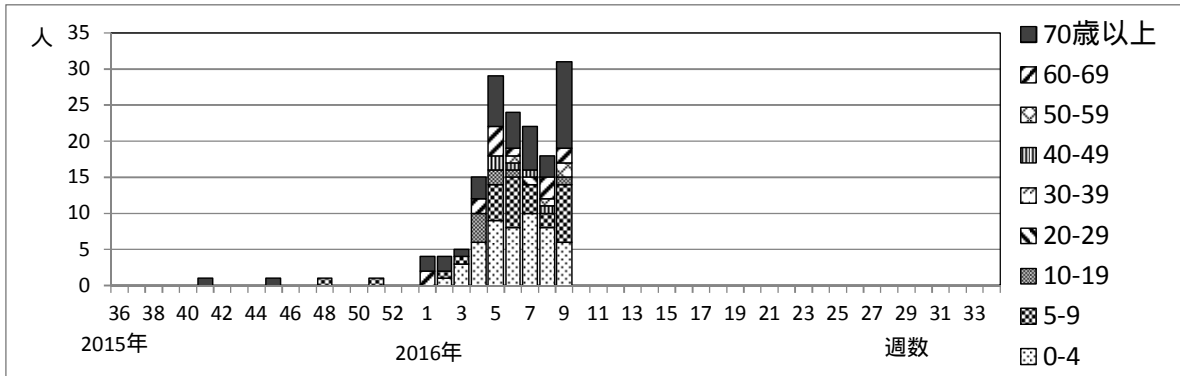
保健所別の定点当たり報告数の推移



- インフルエンザ（入院）基幹定点 -

第9週は基幹定点（10 医療機関）のうち8カ所から31人の報告があり、前週の18人より大きく増加した。年齢階級別では、70歳以上12人が最も多く、5-9歳8人、0-4歳6人の順であった。

インフルエンザ（入院）の週別報告数



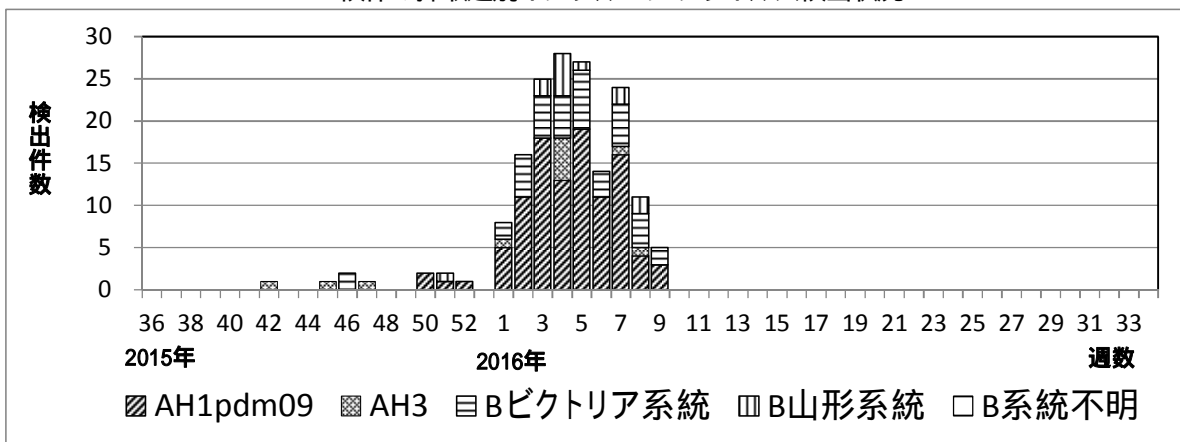
—インフルエンザウイルス検出状況—

さいたま市(4人)、川口(3人)、熊谷(2人)、草加(2人)、狭山(2人)、東松山(1人)、鴻巣(1人)保健所管内で採取された検体から、今週新たにAH1pdm09が7件、A香港が1件、B型が7件検出された。9月(36週)以降の検出は、AH1pdm09が104件、A香港が11件、B型が53件の計168件となった。

年齢階級別インフルエンザウイルス検出状況

2015年36週から		年齢階級								計
		0~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
AH1pdm09	今週検出分	2			1	1	2	1		7
	累積	63	6	1	10	9	5	6	4	104
AH3(A香港)	今週検出分		1							1
	累積	5	5	-	-	-	-	-	1	11
B型	今週検出分	3	2		1				1	7
	累積	26	16	4	4	1	-	-	2	53

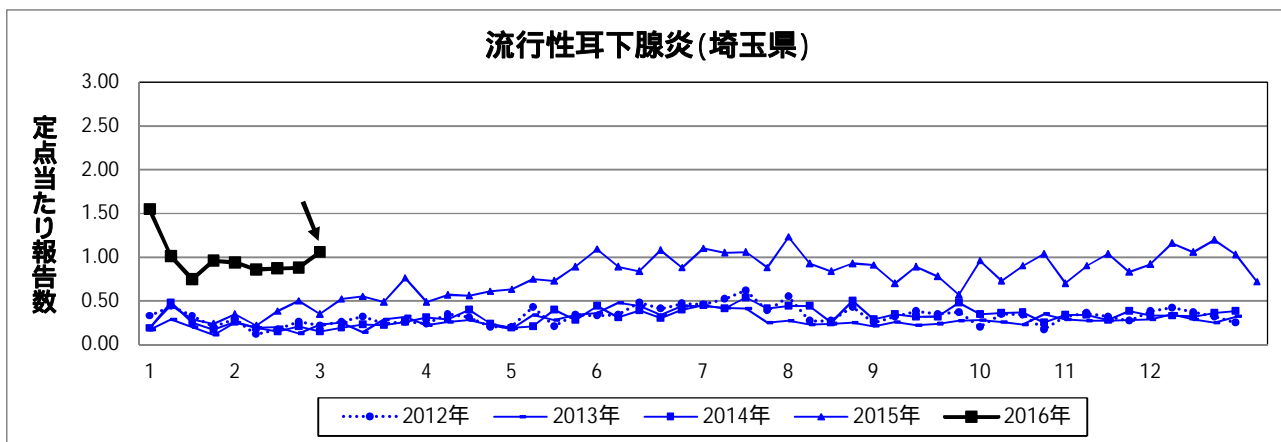
検体の採取週別インフルエンザウイルス検出状況



< 定点把握対象疾患の患者情報 >

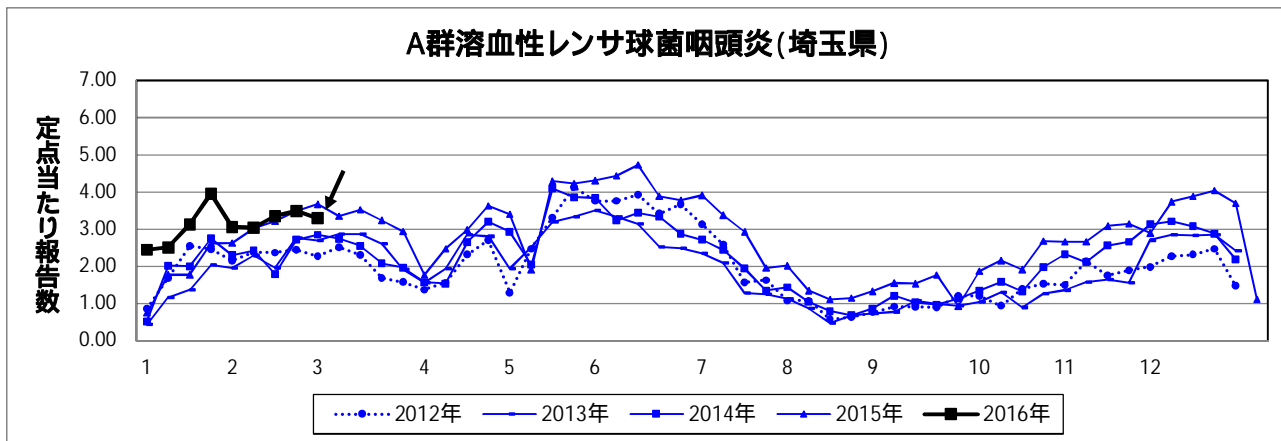
流行性耳下腺炎

本庄、川越市保健所を除く県内 14 保健所から報告があった。保健所別では、幸手(3.11)、坂戸(2.83)、春日部(2.67)、東松山(2.20)保健所管内からの報告が多い。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

県内全保健所から報告があった。保健所別では、熊谷(6.33)、川越市(5.88)、草加(5.27)保健所管内からの報告が多い。



感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第9週)

(2016年3月8日 15:00集計)

	今週 届出	累計	2015年 累計		今週 届出	累計	2015年 累計
一類感染症							
エボラ出血熱				ペスト			
クリミア・コンゴ出血熱				マールブルグ病			
痘そう				ラッサ熱			
南米出血熱							
二類感染症							
急性灰白髄炎				中東呼吸器症候群(MERS)			
結核*	-	-	1272	鳥インフルエンザ(H5N1)			
ジフテリア				鳥インフルエンザ(H7N9)			
重症急性呼吸器症候群(SARS)							
三類感染症							
コレラ				腸チフス		1	1
細菌性赤痢		2	6	パラチフス			1
腸管出血性大腸菌感染症		3	167				
四類感染症							
E型肝炎	1	7	7	東部ウマ脳炎			
ウエストナイル熱				鳥インフルエンザ(H5N1を除く)			
A型肝炎			16	ニパウイルス感染症			
エキノコックス症				日本紅斑熱			
黄熱				日本脳炎			
オウム病			1	ハンタウイルス肺症候群			
オムスク出血熱				Bウイルス病			
回帰熱				鼻疽			
キャサナル森林病				ブルセラ症			
Q熱				ベネズエラウマ脳炎			
狂犬病				ヘンドラウイルス感染症			
コクシジオイデス症				発しんチフス			
サル痘				ポツリヌス症			
ジカウイルス感染症				マラリア			1
重症熱性血小板減少症候群				野兔病			
腎症候性出血熱				ライム病			
西部ウマ脳炎				リッサウイルス感染症			
ダニ媒介脳炎				リフトバレー熱			
炭疽				類鼻疽			
チクングニア熱			1	レジオネラ症	2	10	90
つつが虫病				レプトスピラ症			
デング熱		3	13	ロッキー山紅斑熱			
五類感染症							
アメーバ赤痢		8	30	侵襲性肺炎球菌感染症	2	22	84
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		1	6	水痘*		2	10
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		6	40	先天性風しん症候群			
急性脳炎	3	13	28	梅毒	5	18	103
クリプトスポリジウム症				播種性クリプトコックス症	2	7	
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	10	破傷風			2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	7	12	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
後天性免疫不全症候群	1	6	35	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	2	9
ジアルジア症			4	風しん			8
侵襲性インフルエンザ菌感染症			14	麻しん			2
侵襲性髄膜炎菌感染症			2	薬剤耐性アシネトバクター感染症	2		1
指定感染症	該当疾患は無し						

水痘* : 患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計		1		

累計は診断日で集計
* 2015年累計は暫定値です。
* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第9週 平成28年2月29日～平成28年3月6日)

	合計																				
	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ #1	8,593	15	68	277	312	406	604	699	779	737	660	619	1,493	216	257	477	445	242	164	92	31
合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
RSウイルス感染症	14	4	2	4	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	37	-	-	5	4	7	4	8	5	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	522	-	2	16	20	41	57	72	73	60	45	44	75	2	15	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	885	3	45	97	65	73	98	79	69	50	48	35	93	26	104	-	-	-	-	-	-
水痘	82	-	2	8	5	5	11	10	16	10	4	5	6	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	3	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	41	-	-	1	1	3	5	11	6	4	6	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	61	2	25	27	5	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	167	-	1	1	6	14	18	28	28	13	20	13	18	2	5	-	-	-	-	-	-
合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	15	-	1	1	-	1	-	2	1	1	-	-	-	-	-	3	1	1	2	1	-
合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	31	-	6	8	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	12

表中の数値は各定点からの報告数(- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

この情報は感染症法に基づく、感染症発生動向調査により、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターの持つ病原体検査情報をまとめたものです。

今月のコメント

インフルエンザウイルスの検出が続いています。2月のインフルエンザ検体は74検体が搬入され、AH1pdm09が39件、B型が19件、AH3が2件検出されました。

ウイルス分離状況

四類感染症 平成28年3月3日現在(累計:1月~)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数			
		1月	2月	3月	累計
E型肝炎	検体数	5			5
	E型肝炎	4			4
	検査中	3			3
A型肝炎	検体数				
	A型肝炎				
	検査中				
重症熱性血小板減少症候群	検体数				
	SFTS 検査中				
デング熱	検体数	1			1
	デング	1			1
	ヒトパルボ B19 検査中				

五類感染症 平成28年3月3日現在(累計:1月~)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数			
		1月	2月	3月	累計
咽頭結膜熱	検体数	156	119		275
	アデノ 1				
	アデノ 2				
	アデノ 3	1			1
	アデノ 4 検査中	1	1		2
インフルエンザ	検体数	83	74		157
	インフルエンザ AH3	6	2		8
	インフルエンザ B	24	19		43
	インフルエンザ AH1pdm09	50	39		89
	EB 検査中		1		1
感染性胃腸炎	検体数	8	4		12
	ノロ	4	1		5
	サボ				
	アストロ				
	ロタ (A)	1	1		2
	アデノ 40/41	1			1
ヘルパンギーナ	検体数				
	コクサッキー A2				
	コクサッキー A6				
	コクサッキー A8				
	コクサッキー A9				
	コクサッキー A10 ライノ 検査中		1		1
手足口病	検体数	1			1
	コクサッキー A6				
	コクサッキー A9				
	コクサッキー A14				
	コクサッキー A16 検査中	1			1
脳炎・脳症 (四類以外)	検体数	2	2		4
	ヒトヘルペス 6				
	ヒトヘルペス 7				
	単純ヘルペス 1 インフルエンザ AH1pdm09 検査中		2		2
麻しん	検体数		1		1
	麻しん				
	ヒトパルボ B19 検査中		1		1

五類感染症つづき

臨床診断名	ウイルス	検出月				累計
		1月	2月	3月		
風しん	検体数					
	風しん 検査中					
先天性風しん症候群	検体数					
	風しん 検査中					
無菌性髄膜炎	検体数	12			12	
	コクサッキー B2	2			2	
	エンテロ nt 検査中	1			1	
流行性角結膜炎	検体数					
	アデノ 検査中					
流行性耳下腺炎	検体数	1			1	
	ムンプス 検査中					
その他	検体数	46	37		83	
	エコー 3	2			2	
	エコー 6					
	エコー 7					
	エコー 9					
	エコー 18					
	エコー 25					
	エンテロ 68					
	パレコ	1			1	
	アデノ 1		1		1	
	アデノ 2	2	1		3	
	アデノ 3					
	アデノ 11	1			1	
	単純ヘルペス 1		1		1	
	ヒトヘルペス 6	3	1		4	
	ヒトヘルペス 7	3			3	
	インフルエンザ B		1		1	
	インフルエンザ AH1pdm09	1	1		2	
	RS	5			5	
	ヒトメタニューモ		3		3	
ライノ	6	2		8		
サイトメガロ	3			3		
コロナ	1			1		
ヒトパルボ B19	1			1		
EB	3	1		4		
検査中		24		24		

nt : not typed

細菌分離状況

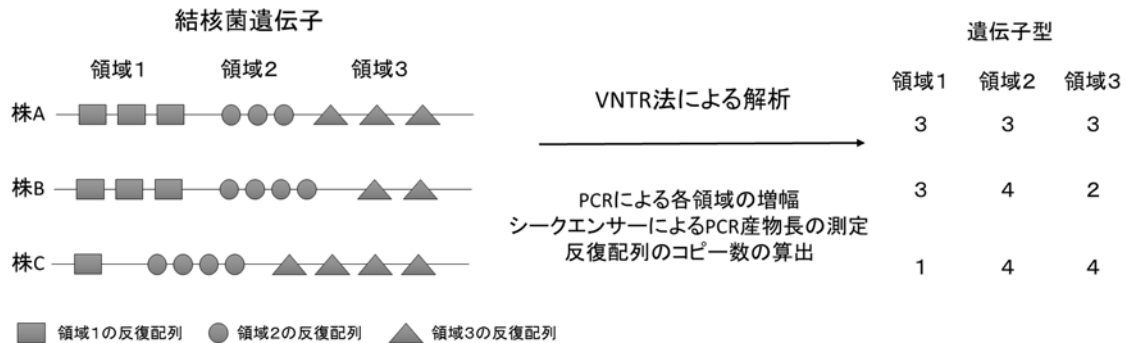
平成28年3月3日現在

病原体名	分離月	備考 (2月分)	
		1月	2月
三類	赤痢菌		1
	チフス菌	1	
	腸管出血性大腸菌 O157		1
四類	腸管出血性大腸菌その他	1	
	レジオネラ菌	1	
五類	溶血性レンサ球菌	1	2
	その他	1	

VNTR 法を用いた結核菌の遺伝子型別について

結核患者が発生した際、感染拡大を防止するため、感染源の特定や感染経路の解明といった疫学調査が実施されます。その主な内容としては、患者の行動状況や接触者調査などの実地疫学調査が挙げられますが、さらに、患者から分離された結核菌の遺伝子を解析し、その異同を判別することによって、結核菌の伝播経路や拡散性をより詳細に分析できるとされています。その手法として種々の遺伝子型別法が利用されており、中でも、結核菌の遺伝子中のいくつかの領域に注目し、そこに存在する反復配列の数を菌株間で比較し、分類する反復配列多型分析 (Variable numbers of tandem repeats; VNTR) 法 (図) が、全国的に普及してきています。VNTR 法は、少量の死菌からでも実施が可能であり、得られたデータを数値として表すことから、データの比較や長期間に及ぶ継続的なデータ蓄積が容易であるという利点があります。

図



日本では、国内で分離される結核菌の80%を北京株と呼ばれる株が占めることから、北京株間で変異の大きい12の領域を組み合わせたJapan Anti-Tuberculosis Association (JATA)(12)-VNTRが国内標準法として提唱され、全国的に地方衛生研究所への技術展開が進められています。埼玉県衛生研究所においても、県内で発生した結核の感染経路や感染源の推定に役立てることを目的に、VNTR法による遺伝子型別を導入して、JATA(12)-VNTRより多い24領域の測定を行っています。24領域を測定することにより、さらに詳細な型別が可能になり、異同判別の精度向上が期待されます。

埼玉県では、結核対策の一環として、県内で発生した結核患者由来株の収集及びVNTR法による分子疫学解析の体制を強化していくことを予定しています。関係機関の方々には、菌株譲渡についての御協力をお願いいたします。

全国・関東情報 第7週

(2月15日～2月21日)

平成28年3月9日

インフルエンザの定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は愛知県(55.52)、広島県(46.93)、石川県(45.27)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は1,349例と前週と比較して減少した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢別では0歳(116例)、1～9歳(465例)、10代(60例)、20代(17例)、30代(22例)、40代(40例)、50代(61例)、60代(140例)、70代(177例)、80歳以上(251例)であった。

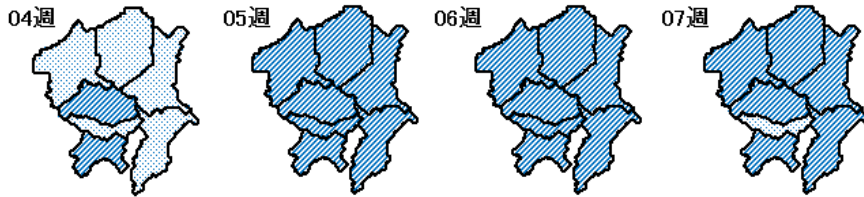
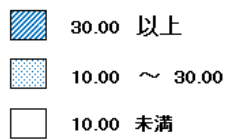
RSウイルス感染症の報告数は1,171例と第2週以降減少が続いている。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約78%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第4週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は鳥取県(1.32)、石川県(1.10)、島根県(1.09)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は鳥取県(8.74)、山形県(7.90)、宮城県(7.49)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第4週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は島根県(16.35)、大分県(12.94)、熊本県(12.08)である。水痘の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は富山県(0.83)、長崎県(0.75)、鹿児島県(0.67)である。手足口病の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は佐賀県(0.13)、沖縄県(0.09)、富山県(0.07)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は第2週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は山形県(2.17)、秋田県(2.14)、鳥取県(1.37)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は宮城県(3.36)、佐賀県(2.87)、石川県(2.76)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は静岡県(1.50)、岐阜県(1.20)、福岡県(1.07)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は減少した。36都道府県から205例報告があり、年齢別では0歳(22例)、1～4歳(132例)、5～9歳(37例)、10代(7例)、30代(2例)、70歳以上(5例)であった。

<関東情報>

インフルエンザの定点当たり報告数は、東京都を除く6県で30.00を超え、埼玉県が最も多い。

インフルエンザ



平成28年 07週

	全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数 184,176 定点当たり 37.16	52,719 34.84	3,698 30.82	2,453 32.28	3,697 38.92	10,311 40.59	8,426 39.37	12,374 29.89	11,760 34.59
RSウイルス感染症	報告数 1,171 定点当たり 0.37	153 0.16	14 0.19	6 0.13	8 0.14	25 0.16	23 0.17	32 0.12	45 0.21
咽頭結膜熱	報告数 1,145 定点当たり 0.36	196 0.21	20 0.27	1 0.02	18 0.31	39 0.24	36 0.27	52 0.20	30 0.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数 10,343 定点当たり 3.27	2,740 2.89	143 1.91	83 1.73	233 4.02	540 3.35	513 3.80	738 2.84	490 2.31
感染性胃腸炎	報告数 21,043 定点当たり 6.66	6,399 6.74	611 8.15	182 3.79	304 5.24	1,148 7.13	817 6.05	1,885 7.25	1,452 6.85
水痘	報告数 1,251 定点当たり 0.40	406 0.43	21 0.28	10 0.21	20 0.34	94 0.58	64 0.47	97 0.37	100 0.47
手足口病	報告数 76 定点当たり 0.02	19 0.02	3 0.04	-	1 0.02	3 0.02	3 0.02	8 0.03	1 0.00
伝染性紅斑	報告数 1,387 定点当たり 0.44	279 0.29	15 0.20	23 0.48	17 0.29	68 0.42	44 0.33	77 0.30	35 0.17
突発性発しん	報告数 1,172 定点当たり 0.37	364 0.38	15 0.20	16 0.33	17 0.29	52 0.32	62 0.46	111 0.43	91 0.43
百日咳	報告数 36 定点当たり 0.01	10 0.01	-	1 0.02	-	1 0.01	3 0.02	2 0.01	3 0.01
ヘルパンギーナ	報告数 24 定点当たり 0.01	4 -	1 0.01	-	2 0.03	-	-	1 0.00	-
流行性耳下腺炎	報告数 2,681 定点当たり 0.85	745 0.79	72 0.96	41 0.85	17 0.29	140 0.87	174 1.29	164 0.63	137 0.65
急性出血性結膜炎	報告数 4 定点当たり 0.01	1 -	-	-	-	1 0.02	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数 415 定点当たり 0.60	153 0.76	19 1.12	7 0.58	9 0.64	28 0.68	21 0.64	22 0.56	47 1.02
細菌性髄膜炎 #2	報告数 11 定点当たり 0.02	1 0.01	-	-	-	-	1 0.11	-	-
無菌性髄膜炎	報告数 10 定点当たり 0.02	3 0.04	-	1 0.14	-	-	1 0.11	1 0.04	-
マイコプラズマ肺炎	報告数 248 定点当たり 0.52	39 0.48	8 0.62	4 0.57	8 1.00	5 0.50	1 0.11	11 0.44	2 0.20
クラミジア肺炎 #3	報告数 6 定点当たり 0.01	1 0.01	-	-	-	1 0.10	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数 205 定点当たり 0.43	16 0.20	-	-	2 0.25	1 0.10	-	13 0.52	-

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-0.00)

総合トップ > 健康・福祉 > 感染症 > 感染症情報センター > 感染症の流行情報 > 感染症発生動向調査 > 感染症発生動向調査 2016年 > 感染症の流行状況 2016年 第9週

感染症発生動向調査 2016年

- [感染症の流行状況 2016年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第8週](#)

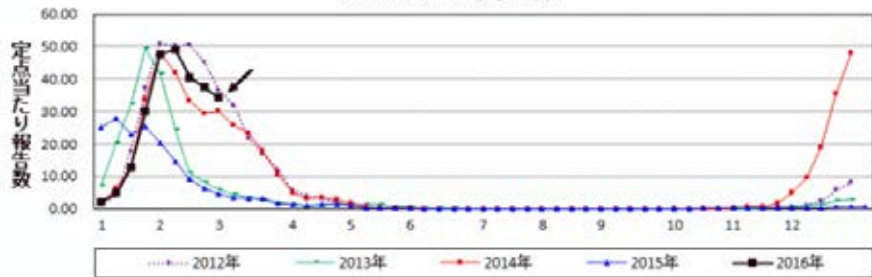
感染症の流行状況 2016年 第9週

2016年9週（平成28年2月29日～3月6日）の要点 平成28年3月9日

インフルエンザの定点当たり報告数は、前週に引き続きわずかに減少しましたが、多い状況が続いています。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)

インフルエンザ(埼玉県)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	↓	★★★	伝染性紅斑	↓	★★
RSウイルス感染症	→	★	突発性発しん	→	★
咽頭結膜熱	→	★	百日咳	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★★	ヘルパンギーナ	→	★
感染性胃腸炎	→	★★	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑	★★
水痘(みずぼうそう)	→	★★	急性出血性結膜炎	→	★
手足口病	→	★	流行性角結膜炎	↓	★★

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。 *2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) *3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン